

児童会館の自主事業のうち、ボランティアによる活動（会館利用）の伸びが顕著である。
ボランティアによる活動の参加者等は下記のとおりである。

表 4-3 ボランティアによる活動（児童会館）の推移

	H11 年度	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度
開催回数（回）	10	11	14	54	41
こども参加者数（人）	129	402	420	1,434	971
大人参加者数（人）	69	250	304	833	533
参加者数 合計（人）	198	652	724	2,267	1,504
ボランティア延活動人員（人）	171	279	354	542	364
人数合計（人）	369	931	1,078	2,809	1,868
自主事業全体（人）	34,763	36,046	36,462	40,582	40,175
自主事業に占める割合	1.1%	2.6%	3.0%	6.9%	4.6%

平成 6 年度に館ボランティアを募集し、ボランティアルームを設置してボランティアの育成を始めている。ボランティアによる会館利用は、平成 7 年度 430 人、平成 8 年度 216 人であり、最近 5 年度は上記の表のとおりである。ボランティアの養成・受入は、事業の重点推進事項にも挙げられている。なお、自主事業別入館者数の推移の表において、平成 11 年度から平成 13 年度まではボランティア延活動人員が入館者数に含まれており、平成 14 年度以降はボランティア延べ活動人員が入館者数に含まれていない（自由来館に含まれている）。

ボランティアによる活動の主な内容は、絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び、「夏のてとてとランド お化けやしき」である。

上記の表より、開催回数・参加者数・ボランティア延活動人員のいずれをみても、平成 15 年度は前年度より減少しているものの、全体的には増加傾向にあることがわかる。なお、平成 14 年度が増加しているのは、他の年度はボランティアグループによる活動のみであるが、平成 14 年度は個人のボランティア活動（開催回数 17 回、参加者数 772 人）があったためである。

子ども博物館の自主事業のうち、最近 5 年度でみるとプラネタリウムの伸びが顕著である。

表 4-4 プラネタリウム（子ども博物館）の推移

区分		H11 年度	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度
一般	投映回数	415	370	367	364	385
	子ども（人）	3,491	3,830	4,181	4,507	4,217
	大人（人）	1,723	1,884	2,199	2,565	2,699
	人数合計（人）	5,214	5,714	6,380	7,072	6,916
団体	投映回数	66	83	70	96	69
	子ども（人）	1,430	1,917	1,534	1,941	1,537
	大人（人）	339	353	360	456	278
	人数合計（人）	1,769	2,270	1,894	2,397	1,815
合計	投映回数	481	453	437	460	454
	子ども（人）	4,921	5,747	5,715	6,448	5,754
	大人（人）	2,062	2,237	2,559	3,021	2,977
	人数合計（人）	6,983	7,984	8,274	9,469	8,731
自主事業全体		34,763	36,046	36,462	40,582	40,175
自主事業に占める割合		20.1%	22.1%	22.7%	23.3%	21.7%

第 1 展示室にあるプラネタリウムの座席数は 44 席である。通常投映（一般）の投映回数は、平日（火曜日から金曜日）は 1 日 1 回、土・日・祭日は 1 日 2 回であり、団体投映は随時おこなっている。入場は無料となっている。

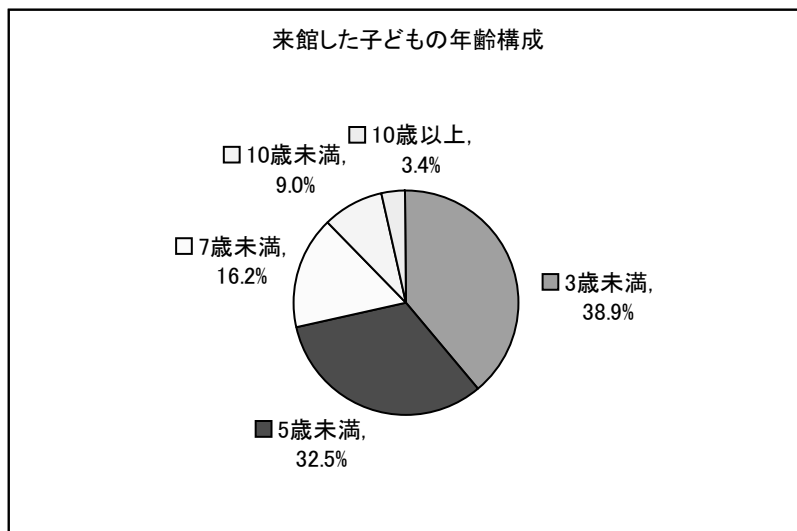
最近 5 年度は増加傾向にある。しかし、それ以前の年度から分析してみると、プラネタリウム改修のおこなわれた平成 7 年度は 12,170 人（自主事業に占める割合 23.7%）の利用者であったが、その後徐々に減少し、平成 11 年度は 6,983 人にまで落ち込んでいる。投映番組は季節に合わせて 4 番組あるが、定期的な番組のリニューアルはおこなわれていない。また、投映時間はいずれも約 40 分であり、小学校入学前の児童にとっては長すぎると思われる。したがって、最近 5 年度は増加傾向にあるものの、長期的にみれば入館者に「いつ来ても同じ」と思われ、入館者にとって魅力が薄れているため、頭打ちとなっていると思われる。

(2) 入館者の年代別からの分析

入館者を年代別にみると、入館した子どもの年齢構成は、3 歳未満が最も多く、年齢が上がるほど少なくなっている。3 歳未満及び 5 歳未満の合計で 71.4% となり、ほぼ小学校

入学前の7歳未満の児童をあわせると割合は87.6%となる。アンケート結果より、小学校就学前の児童が主たる利用者であり、その児童を持つ親が子どもとともに来館していることが理解できる。

図 4-1 入館者の子どもの年齢別



(来館者に対するアンケート調査(注) 1 を一部加工して作成。)

(注) 1. アンケート調査の概要(以下の「来館者に対するアンケート調査」について同じ。)

対象者：一般入館者

期間：(平成 16 年度) 平成 16 年 7 月 1 日～平成 16 年 7 月 31 日

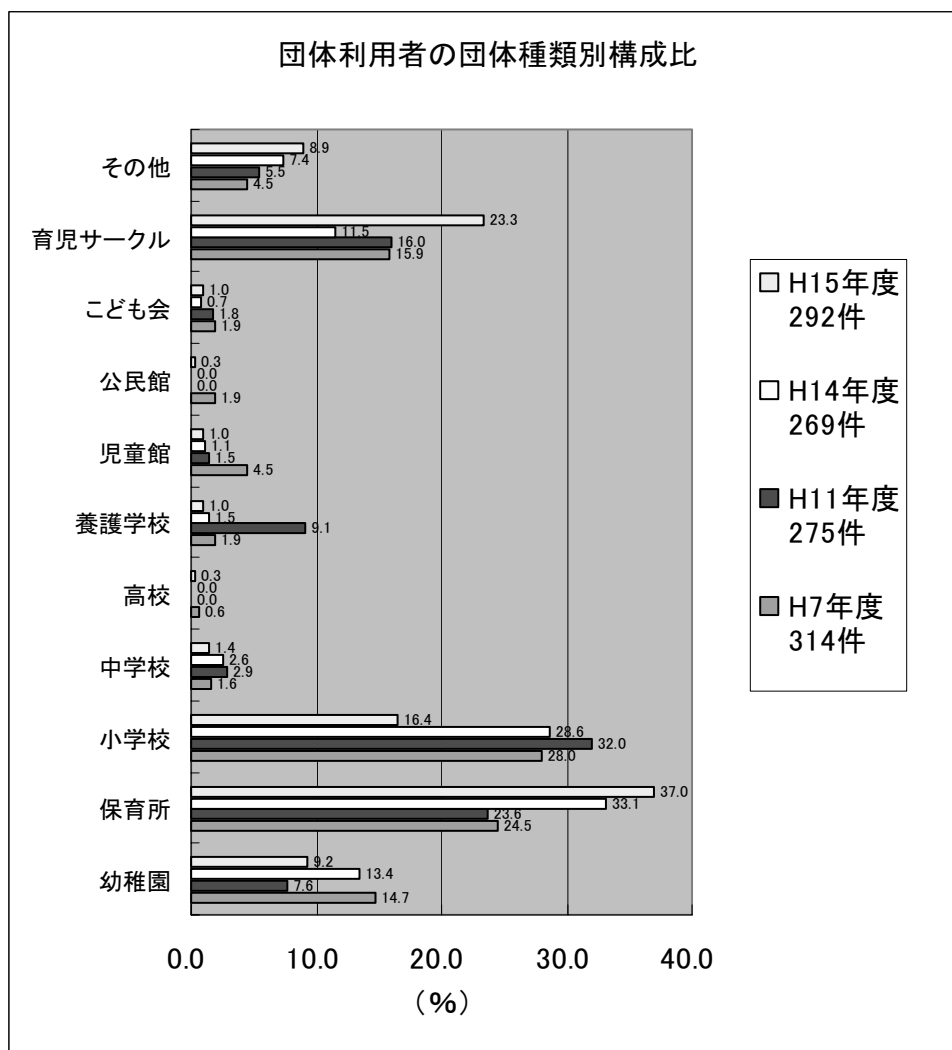
調査数：309 名

なお、このアンケートは子ども連れの保護者に対するアンケートであり、保護者を同伴しない子どもの意見は反映されていない。

(注) 2. アンケート記入者 309 人の子ども 357 人に対する年齢構成を記載している。

児童会館・子ども博物館が毎年度作成している事業概要によれば、団体利用者の団体種類別利用状況は、以下のとおりである。

図 4-2 団体利用者の団体種類別利用状況



(児童会館・子ども博物館が毎年度作成している事業概要より一部加工して作成。)

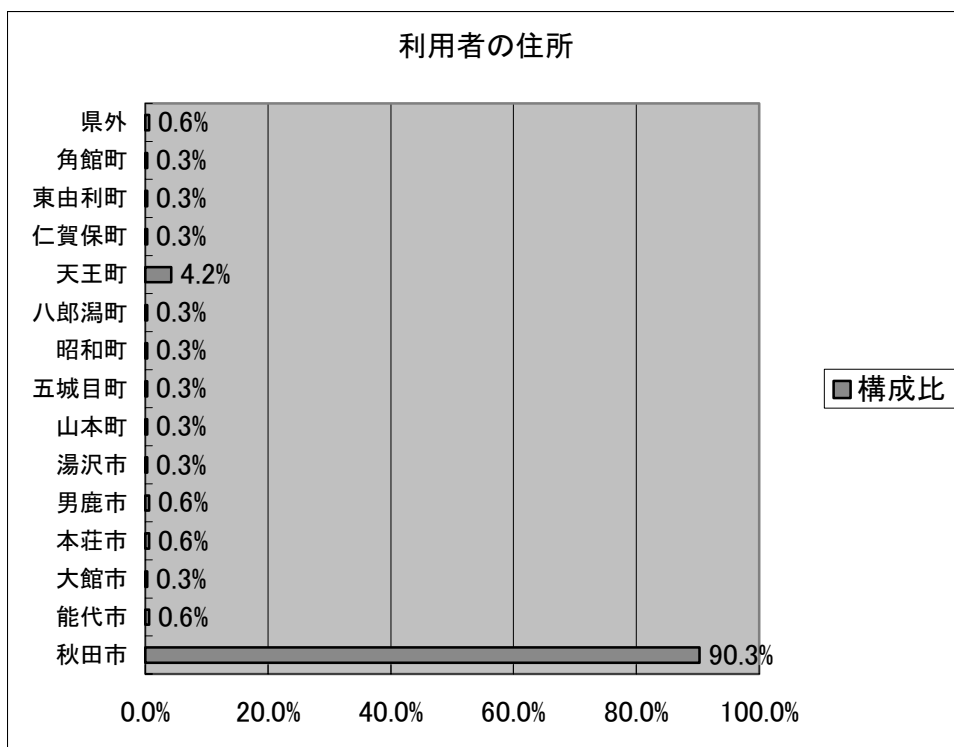
入館者に対するアンケートの結果と同様に、幼稚園・保育所・小学校の占める比率は大きい。ただし、平成15年度の小学校の占める割合は減少している。また、育児サークルの団体利用が多い。育児サークルとは、就学前の子ども（主に0歳から幼稚園入園前）とその親と一緒に活動すること（例えば、子どもたちと一緒に遊んだり、母親同士が情報交換すること）を目的とする非営利のサークルであり、いわゆる仲間作りのサークルである。

(3) 入館者の地域別からの分析

入館者を地域別にみると、所在地である秋田市で90.3%を占めており、秋田市の利用者がほとんどである。また、月2回以上の利用者が過半数を占めている。したがって、秋田市内在住のリピーターが主たる利用者となっていることがわかる。これは、当然ながら遠方からは利用しにくいこと、また、遠方であっても来館したいというニーズまで満たしていない施設となっていると考えられる。

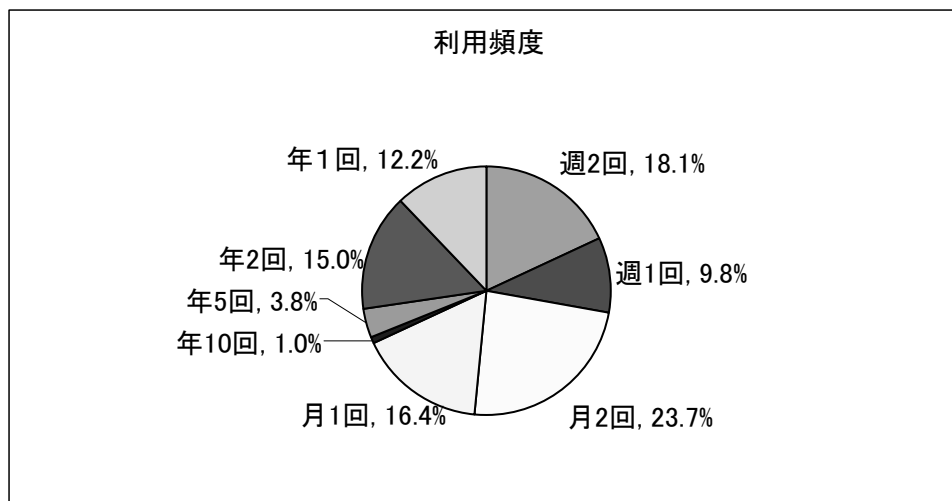
なお、利用頻度に関して、育児環境のひとつとして「遊び」を主体とした日常的な利用者と企画を目的とした利用者に二分化されている状況である、と考えられる。

図 4-3 入館者の地域別構成比



(来館者に対するアンケート調査を一部加工して作成。)

図 4-4 入館者の利用頻度



(来館者に対するアンケート調査を一部加工して作成。)

(注) 未回答 22 名を除く構成割合を示している。

(4) 入館者が関心のある事業内容からの分析

入館者が関心のある事業内容を見ると、館内の遊具は 87.1%であるのに対して、催し物・図書・プラネタリウムは 23.9%~32.0%の利用状況であることから、日常的な利用者は「遊び」を主体としている実態がうかがえる。特によいと思われるコーナーはどこかという問いに対して、幼児コーナー31名、レクリエーションホール 20名、遊具 19名の順で回答が多い。これらのことから、日常的な利用者は、何をどのようにという目的意識はなく、天候に左右されることなく、育児環境の一部として、あるいは、安らぎの場として利用している、と考えられる。

表 4-5 入館者の目的別

利用の有無	ある	ない	合計回答数	比率
催し物	96	202	298	31.1%
館内の遊具	269	-	269	87.1%
図書	74	209	283	23.9%
プラネタリウム	99	174	273	32.0%

(来館者に対するアンケート調査を一部加工して作成。)

(注) 1. 比率は、アンケート記入者 309 人に対し利用したことが「ある」と回答した比率

(注) 2. 「館内の遊具」は、整備状況が「少ない」・「ちょうどよい」・「多い」の回答を求めたものであるため、回答数 269 名を「ある」として記載した。

県内各地で活動している児童厚生員及び県内各地の児童館を利用している保護者に対するアンケート調査を同時期に実施している。このアンケートは、児童会館を利用していない人を含めて、利用する可能性が高い県内各地の保護者等を対象としている点で、「来館者に対するアンケート調査」と異なる。回答者 318 人のうち、施設を利用したことがあると回答した 147 人の利用目的別人数は下記のとおりである（複数回答あり）。

表 4-6 入館目的

入館目的	人数	比率
プラネタリウム	73	49.7%
ワークショップ	37	25.2%
機材の借り入れ	12	8.2%
子ども劇場の催し物	62	42.2%
昼食時に利用	25	17.0%
子ども会等行事	23	15.6%
その他イベント	13	8.8%
その他	18	12.2%
計	263	

（児童厚生員及び県内保護者に対するアンケート調査より（注）2）

（注）1. 比率は、利用ありと回答した 147 人に対する比率

（注）2. アンケート調査の概要（以下の「児童厚生員及び県内保護者に対するアンケート調査」について同じ。）

対象者：県内各地の児童館に勤務する児童厚生員及び児童館を利用している子どもの保護者

期間：平成 16 年 7 月 7 日～平成 16 年 7 月 31 日

調査数：児童厚生員 60 名及び県内保護者 258 名の合計 318 名

なお、このアンケートは児童厚生員及び県内保護者に対するアンケートであり、子どもの意見は反映されていない。

プラネタリウム・子ども劇場・ワークショップの順で利用が多く、児童会館・子ども博物館のさまざまな機能で利用されている。また、県内各地の児童館を利用している子どもの保護者でも利用ありの割合は 46.2%と低く、そもそも「児童会館」を知らない者が 27.4%もいたことから、プラネタリウム・子ども劇場の催し物等についてより積極的な PR が必要

である、と考えられる。

特によいと思われるコーナーはどこかという問いに対して、プラネタリウム 26 名、遊具 16 名、科学のコーナー 13 名の順で回答が多く、来館者に対するアンケートの結果と比較すると順位が異なっている。どのような催し物を希望するかという問いに対して、子ども劇場 21 名、人形劇 15 名、大型遊具 12 名、ゲーム遊び 12 名の順に多い。これらのことから、県内各地の児童館で味わうことができない子ども劇場、プラネタリウム等の大型児童厚生施設としての機能への期待は大きい、と考えられる。

(5) 入館者の要望からの分析

子ども博物館では、下記の現状の問題点と課題を認識している。これらの現状の問題点は、平成 16 年 7 月に実施したアンケート結果においても記載されているものである。なお、来館者に対するアンケート調査と児童厚生員及び県内保護者に対するアンケート調査のいずれにおいてももっとも多い意見は「駐車場が少ない」であった。

現状の問題点	課題
1. エアコン設備 1 階のレクリエーションホール、幼児コーナー及び保護者の休憩場所にエアコン設備がないため、夏季の利用に適していない。	1 階部分は空間が大きいため、大容量の空調設備が必要となる。また、電気料金も増大する。エアコン設備の稼働日数から、高額設備投資ができる状況にない。
2. 駐車場が少ない 生涯学習センターとの共通駐車場であり、さらに、近隣に有料駐車場もないことから利用者にとって不便である。	休日の駐車場は、近隣にある県の施設の協力により対応しているものの、平日は当該施設の通常業務があり協力が得られないため、対応できない。
3. 展示物のリニューアル 第 1 展示室・第 2 展示室は、設立当初からの展示物が多く、時代にそぐわないという意見がある。	設立当初は小中学校の生徒を対象に設置されたが、現在では 0 歳児を含めた幼児等の利用が多く、展示内容と利用者層がかけ離れている。 本来 5 年を目安に計画的な更新が理想であると一般的にいわれているが、予算が伴わない。
4. 遊具のリニューアル 遊具の更新がなく、また、幼児が遊べるような遊具が少ない。	壊れたものや衛生上の配慮からの更新で精一杯である。
5. プラネタリウムの投映番組 利用者の対象年齢に応じた投映内容となっていない。	利用者の低年齢化にあった番組（投映時間、内容）に変更したいが、予算面で不可能である。

これらは、いずれも物的設備にかかわるものであり、予算が伴えば解決可能であっても、今の財政事情では困難な課題である。これら以外にもさまざまな要望がアンケートによせられているが、いずれにしても、今後の方向性を見極めたうえで、取捨選択を前提とした対応が迫られている。

上述の(1)～(5)の分析から、児童会館・子ども博物館は「秋田市及びその近隣在住の小学校就学前の児童をもつ家庭が児童会館・子ども博物館のさまざまな機能を目的に入館している」と言える。また、設立当初予定していた利用者層とは異なり、利用者層は低年齢化し、かつ、現状の施設機能と利用者のニーズにずれも見られ、これらについて対応していかなければならない。従来の児童健全育成施設としての機能だけでなく、育児支援（「遊び」を中心とした子育て環境や育児相談機能の整備等）の役割が重要になっていく、と考えられる。

2 財務・人員の分析

厳しい財政状況の中、各施設の予算も削減対象である。予算削減が児童会館・子ども博物館の業務にどの程度影響を及ぼしているかは、必ずしも明確ではないが、入場者数だけを捕らえれば、増加傾向にあり、予算削減のなかで、健闘していると言える。また、人員については、過去5ヵ年度において大幅な減少は見られない。

(1) 決算支出

平成13年度まで水道光熱費は隣接する生涯学習センターが負担しており、平成13年度までの数値に反映されていない。金額は15百万円程度であり、これを勘案すると平成13年度以降は、一般財源予算の削減に対応して概ね逡減しており、構成比（支出合計に対する各費用の割合）に大きな変動はない。

入館者数は維持増加傾向を保っており、予算削減が進行する状況で健闘しているといえる。ただし、今後の予算削減を前提とすれば、自主事業の縮小を余儀なくされることにつながるため、利用者ニーズを極力満たすために予算をどのように使用していくのかという観点で事業の絞り込みが必要である。

表 4-7 決算支出推移

(単位：千円)

	H11 年度	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度
[金額]					
給与費	108,563	111,620	100,274	106,388	104,987
管理運営費	36,812	43,323	44,875	52,700	49,624
自主事業費	0	1,363	0	0	0
計	145,375	156,306	145,149	159,088	154,611
[構成比]					
給与費比率	74.7%	71.4%	69.1%	66.9%	67.9%
管理運営費比率	25.3%	27.7%	30.9%	33.1%	32.1%
自主事業費比率	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 1. 児童会館及び子ども博物館の合計である。

(注) 2. 平成 12 年度の自主事業費 1,363 千円は、児童会館開設 50 周年記念事業の実施によるものである。

表 4-8 子ども博物館の管理運営費の推移

(単位：千円)

	H11 年度	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度
委託費	3,281	3,279	12,280	3,093	3,135
委託費以外	2,811	2,949	2,888	2,504	2,351
管理運営費 計	6,092	6,228	15,168	5,597	5,486

(注) 平成 13 年度は第 1 展示室展示装置の製作 9,187 千円があった。

管理運営費のうち、子ども博物館単独の管理運営費に注目すると、委託費の割合が高いことがわかる。子ども博物館の自主事業の経費は、委託費以外の管理運営費でまかなっている。委託費の内容は、平成 13 年度を除くと、プラネタリウム・展示室の保守点検（不具合がないことの点検確認）である。すなわち、修繕を要する不具合が発見された場合の費用が含まれない経常的に発生する点検費用であり、設備の計画的な更新費用も含まれていない。計画的に施設を改修する余裕はなく、設備の老朽化が進んでいる。

「1 利用者の分析(1) 事業内容からの分析」でみたように、子ども博物館の自主事業のうち最も入館者数が多い事業はプラネタリウムである。また、「1 利用者の分析(4) 入館者が関心のある事業内容からの分析」でみたように、プラネタリウムは主要な入館目的となっ